

# ときめき

特集

p4~7

トーク&トーク

輝子・邦子のちよつとー！言わせてよ！

自分のこと、社会のこと、元気トーク！



トップ・インタビュー p2~3

「何でも前向きに楽しく！」

～スポーツの素晴しさを伝えたい～

全国会議レポート p8~9

「平成21年度男女共同参画

社会づくりに向けての全国会議」から

情報ホットライン p10~11

書籍紹介 講座レポート

フィフティ<sup>2</sup>から p12

「パパクラブ@東久留米活動中!」「パープルリボン運動」

2009 秋

NO.

43

# Top INTERVIEW



## 何でも前向きに楽しく！

### スポーツの素晴らしさを伝えたい

原 友子さん 東久留米市ソフトバレーボール連盟初代会長

昨年発足した東久留米市ソフトバレーボール(以下ソフトバレーと略す)連盟初代会長として活躍する原さんから話をお聞きしました。原さんは東久留米市生まれ。現在は仕事を持ちながら体育指導委員をし、中学生と小学生、2人のお子さんを育てる多忙な日々を送っています。

#### スポーツに熱中した学生時代

##### 「スポーツとのかかわりは？」

父が体育指導委員をしていたこともあり、子どもの頃からスポーツは好きでした。

母のママさんバレーにもいつもついて行って体育館で遊んでいました。小学校のときの先生がスポーツ好きでクラスで市内のいろいろなスポーツ大会に参加していました。

中学・高校と部活動でバレーボールをしていましたが、高校2年の時に新しく顧問になった先生からハンドボールに向いているよと誘われ、部活が終わると先生について行き、いろいろなハンドボールチームの練習に参加するようになりました。

その後自分たちのハンドボールチームを作ってもらって、全国大会まで行ったことで目標達成して気が済んだんですね。チームメイトも私も結婚や子育ての時期に来ていたこともあり、チ

ームは解散し、私自身もそこでいったんスポーツから離れました。

#### 楽しさいっぱいのスポーツ

##### 「ソフトバレーとの出会いは？」

17年ほど前に父が「東久留米で普及させよう！」と見つけてきたのがソフトバレーで、「こんな大きなゴムボールを使ってやるんだ」という程度のこと、その時知りました。

その後、上の子が通った幼稚園にソフトバレーのチームがあつて、「父がやっていたあのスポーツだ！」って。そのリーダーの方が体育指導委員をされていたこともあり、誘われて始めました。めぐり合わせだったと思います。

##### 「誰でも楽しめるスポーツだぞってすが？」

ネットの高さが低いので背の低い人や女性でも攻撃ができます。誰でも攻撃できた方がやっぱり楽しいですよ。

ボールも大きく軟らかいので、当たっても痛くないので楽しくできます。

男性と女性が混成チームで一緒にプレーできるというところがソフトバレーの楽しいところだと思います。大会には中学生から50代の方まで参加しています。

「日本ソフトバレーボールリーダー資格」を私も取得していますが、資格取得のための講習の中で、「ソフトバレーは楽しむことを目的とした生涯スポーツである」ことを教えられました。だから会長自らムキになって優勝を目指している場合じゃないんです、本当は。

##### 「東久留米には特別なルールがあるぞってすね？」

東久留米では男性だけでチームを組む部門はなく、女性だけの部門と、男性が2人まで入れる2部門の3つの部門があります。男性が入れる2部門のうちの1部門に「女性の攻撃はOKだけど、男性は

ダメ」という独自のルールを作っています。上手な男性にアシストしてもらって女性が気持ちよく攻撃できる。女性が一番楽しめるルールなので、残してほしいという希望がとて多いんです。

家族で試合に出やすいのもこのルールならではです。現在、東久留米のソフトバレー大会が他の地域と違うのはその部分ですね。



表彰式の原さんと優勝チーム「フレンズ」の皆さん

プレーヤーが会長に！

―連盟の会長になったきっかけは？

会長さんは偉い人がなるものだと思っていたので、引き受けるつもりは全くなかったのですが、連盟を立ち上げる準備段階で、中心になってかわわっているうちに気がついたらなっていた、という感じです。

どこの連盟でも、会長がプレーヤーで決勝戦から汗だくで駆けつけて、表彰状を渡す、なんてないですよ。

―東久留米市ソフトバレー連盟が今後望むことは？

今後は小学生から大ベテランの方まで、プレーヤーの年齢層をもっと広げたいことを考えています。

大会だけでなくPTAや自治会などのレクリエーション活動として、また学校の授業などに取り入れてもらって、もっと身近なスポーツになればいいと思います。

多忙な日々でも「何でも楽しく！」

―原さんはお仕事もしていますね。

1年ほど前から仕事を始めました。基本的に月・水・土曜日は練習、日曜日は試合ということが多く、土日が休みで平日には早く帰れる仕事として事務職を選びました。

平日は6時まで仕事をして7時から練習に行きます。

その間に夕飯の支度をして、子どもたちの宿題も見て。一度座ってしまおうと動けなくなるので子どもの宿題も立ったまま教えます。「用事があるなら、持つてきて！」って。

私は何でも楽しくやって、苦労とは

思わないタイプです。体が丈夫なものよかったです。

―女性のスポーツ活動に必要なことは？

女性は日常生活の中で結構体を動かしているのですが、きっかけさえあればすぐにもスポーツを楽しむことができると思うんです。だから私は、すぐに誘います！

もちろん家族の協力は必要です。試合や練習に夫たちを誘って、一緒に連れて行くケースも結構あります。男性は地域と接触する機会が少ないですが、参加してみるとお父さん同士が飲み仲間になったりもしますよ。応援だけでもいいと思います。

家族総出になると、学校も学年も違う子ども同士で面倒をみたり、と交流もできるので、子どもにも良い影響があると思います。すごく頑張っていたり励まし合っている、怒っている以外の本気のお母さんの姿を子どもが見るのもいいことですよ。

私自身もスポーツを通じて友人が増えて、地域とのかかわりもできました。みんな同じ目的に向かって集まっている人たちなので、良いかかわりが持っています。



大会は好プレーの連続

―今後はどのような活動を考えていますか？

私は市内で「Laughter(ラフター)」というバレーボールチームにも所属しています。ハンドボールチーム「TRY(トライ)」でも活動していて、ハンドボール連盟も設立に向けて何かお手伝いができればと思っています。こちらをもっと手軽にできるように、コートも狭く、人数も少なくしたり、老若男女混成でもできるような『東久留米ルール』を作って、普及させていきたいと思っています。

また、体育指導委員として、毎月第2土曜日の『ニュースポーツデー』にソフトバレーをはじめ、ミニテニス、ラージボール卓球、ユニカール、スカットボールなどの競技指導をスポーツセンターで行なっています。どなたでも100円(小学生未満は無料)で10時から16時まで自分の体力に合ったスポーツを楽しむことができます。今の一押しは、ユニカールです！ニュースポーツの普及にも力を入れていきたいです。

子育てにもスポーツにも明るく前向きな原さん。あまり構えることなく、自然の成り行きの中で生活をエンジョイしている様子うかがえました。

\*ソフトバレーボール

基本的には6人制バレーボールのルールに準じています。違いは、1チーム4人で構成され、大きく柔らかいゴムボールを使うことです。コートはバドミントンのダブルスの広さで、ネットの高さも2メートルと低め。ポジションのローテーションがあり、サーブボール以外はどのポジションからモスバイクを打つてよいことになっています。

\*生涯スポーツ

「生涯にわたって取り組むスポーツ活動」のことです。老若男女あらゆる人たちが自分自身のライフスタイルに適したスポーツを楽しみながら、生涯を通じて継続的に取り組んでいけるものであるという考え方が、「生涯スポーツ」です。

\*ユニカール

氷上ではなく、カーペットの上でストーンを滑らせて楽しむ「カールング」として、スウェーデンで開発されたゲームです。

東久留米市ソフトバレーボール連盟

連盟の加入数は約20団体280名。  
連盟の事業としては市民大会を1年に2回、特別大会を1年に1回行なっています。  
次回は11月に、市民大会がスポーツセンターで開催されます。  
ホームページアドレス  
<http://sky.ap.teacup.com/hsvf/>

男女平等推進センターからのメッセージ

女性とスポーツ活動

スポーツ促進条件として「家事育児が軽減されれば」が男性では3%なのに反して、女性では34.5%というデータがあります。もしも男性の家事育児参加があれば、女性のスポーツ参加を促し、生き生きと女性たちが活動できることがわかります。また男女共同参画基本計画では生涯を通じた女性の健康支援を具体的施策とし、その中の一つとして、スポーツを通じた健康の保持増進を図ることがあげられています。

# 特集

東久留米市男女平等推進センター フィフティ<sup>2</sup>主催

## トーク&トーク

輝子

邦子の

ちょっとー! 言わせてよ!



## 自分のこと、社会のこと、元気トーク!

○日時 平成21年3月18日(水) 午後1時半~3時半  
○場所 西部地域センター 多目的ホール



## 笑い、涙、歌ありの2時間

免疫機能の病気と闘いながら講演活動を続ける評論家の吉武輝子さん。  
がんの撲滅・早期発見を訴えるボランティア活動を始めたタレントの山田邦子さん。  
今回はお2人それぞれの講演と対談をダイジェストでご紹介します。

### 第一部 (吉武輝子さん講演)

#### チャレンジした女性たちに感謝

私、病気のデパートなので、ちょっと疲れており、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

私は、戦前の教育をたっぷりと受けておりますが、敗戦を機にこれからは新しい憲法もできるだろうと期待しておりました。

そして、女性も男性と同じように人間である、という新憲法が發布された。あの時の感動は一生忘れられない。

そして、待ちに待った女性の参政権の制度ができ、戦後初の総選挙です。どの位の女性が男性に混じって戦えるのか? 多分、立候補する女性は誰もいないだろう、と言われていたのが、なんと男性に混じって87人も立候補していたのです。

新聞を見て涙が止まらず、立候補された先輩に感謝しました。

その時、チャンスをつかんでくれた先輩たちがいたから、後輩が生きやすくなった。この先は堂々と胸を張って行こうと…。

#### 明治の男も時代と共に

人間というもの、何があったかではなく、この先どう生きるかによって価値が決まるんです。

その第一歩が、大学に入ることだったんですね。そこで、父親に相談したんです。父親は明治の男だった。

「俺は、女性が学問をすると不幸になる、その考えを変えたい気はない」と。でも、時代は変わっているんですね。やはり人間は古い時代は顧みたくないわけです。で、父親はこう言ったんです。「どうしても行く気で、働いて大学に入るのであれば、そこまでは反対しない」と。

ところが、考えてみると大学の授業料、食事代、着る物まで全部自分でやらなければいけない。これは、至難の業です。

考えた末、できないと言ったら父親は、「やってみなければ分からんではないか」。その言葉を聞き、「働いても行きます」と言っただけです。

父親も母親も、特に母親は心の中では心配したと思います。

そこで、「よし! やってみようじゃないか」。夢中で短期間の受験勉強に集中。頑張った結果、慶応義塾大学に合格したんです。

そうしたら父親が「輝子、そこに座りなさい」と。「俺は一人で行けと言った。君も一人で行くと聞いた。けど当座のお金は持っていないだろうから、用意してある。でも、これは貸すのであるから領収証に名前を書け」と。

その時、私はやっと人間として認められたわけです。

さて、意気揚々と大学に通うことに。女性の数が少なかったこともありすが、あんなに男性にもてたことはありません。今、思えばもって大切にしてあげればよかったなあと。(笑)

第2部 (山田邦子さん講演)

自己検診で乳がん発見！

ところで、戦争中は男性は赤紙一枚で死ななければならなかった。男性の人権が抑圧されていたから女性の人権が踏みじられるんだ、ということが段々に理解できるようになってきたのです。

だから、自分がそんな男性たちに暴力を受けたことをカミングアウトした後では、女性解放運動と護憲・反戦セットにした運動を今日まで続けてきているんです。

ありがたいことに、山田邦子さんたちがそのマラソンのタスキを受け取ってくださったんです。こういう運動は次の世代へとバトンタッチする、駅伝なんです。そのタスキを受け取ってくれた後輩たちに伴走できる、懐の深い大人が増えていくこと。それを望んでやみません。



世のため  
人のために！

よしたけてるこ  
吉武輝子さん

日本初の女性宣伝プロデューサー。女性解放運動を経て評論・執筆活動(主に女性問題)へ。「高齢社会をよくする女性の会」・NPO「女性の安全と健康のための支援教育センター」などの理事を務める。社会にぬくもりを伝えようと7人の女性で、語りと朗読の会「ななにかい」を結成。がん闘病記「生きる。一八〇日目のあお空」ほか書多数。

自己検診で乳がん発見！

皆さん、お元気ですか。山田邦子です。私、2年前に乳がんを患いましたが、お蔭さまで元気にになりました。

そして、がんを公表してよかったと思っております。いろいろな方々からお手紙や電話、その他、励ましの言葉をいただき、勇気づけられました。東久留米の方からもいただきました。本当にありがとうございました。

乳がんは早期発見、早期治療で完治するんです。大切なことは検診を受けることです。

日本人は今や20人に1人は、乳がんが知られるんじゃないですか(笑)。

乳がんに限らずがん全体だと、2人に1人が何らかのがんです。今日、ここにおられる皆さんの半分はがんといいことになりましたね(笑)。

私は乳がんを患い、こうして完治したわけです。そこで、少しでも世のため人のために恩返しできれば、と、病気で頑張れば元気になるということとを、全国を回ったり、テレビで発信したりして伝えていきます。

まあ、私も乳がんになろうと思っただけではないですから、びっくりましたよ。

乳がん発覚の発端は、北野たけしの『本当はこわい家庭の医学』です。この番組で「乳がん特集」というのがあり、それに呼ばれたんです。

自己検診の仕方を、番組では分かりやすく、「肉まんの中に梅干の種を入れ、それを上から押し、どこにあるか当てよう」というゲームをやったんです。

ところが、初心者ですし、どのようなのが乳がんか分からないですよ。それが、肉まんの中で固い物を感じた。梅干の種って結構固いですね。あつ、これが早期の乳がんの大きさと形か？ そう思っただけに自分の胸を触ってみたら、「ああつ！ ある！」ストライクですよ。

びっくりしましたねえ。家に帰って夜寝る時、そういえば今日の番組で、こんなことがあったなあ。再度触ってみたら、「あれっ、まだある」(笑)。

大体、私はあまり深く物事を考えず、悩まず、ここまで頑張ってきたからね。「寝れば治る」と思って寝たんですけど、やっぱり2時間おきに目が覚めた。パニックっていったんでしょうね。

番組で解説してくださった「土井卓(たか)子先生」。お名前が覚えやすかった。早速お願いして、病院に行つて検査をしました。マンモグラフィという乳房をはさんで写真を撮る機械、そしてエコー(超音波)ですね。その後、先生の触診。これが乳がん検査の3点セットなんです。

そこで乳がんだって分かって、土井先生がすぐ手術してくれるものと思っただけで、がんとするのは、これから何回も病院に通うことになるので、近くの病院を紹介すると。それで、紹介されたのが聖路加国際病院の矢形寛先生。

土井先生から「早期に見つけて、あなた偉いわ！よかった、よかった！」と言われていたので、すぐに切つてくれるのかと思つたらそこから検査検査の連続で1カ月半、いろんな検査やりました。

入院するといろいろと、ドキッとすることがありますよ。いよいよ明日が手術という日。前日は検査もないし、不安が募るんです。いくら看護師さんに「大丈夫！」と言われてもねえ。万が一っていうこともあるし、いよいよこれが最後のご飯か？ 最後の入浴か？ って何でも「最後」つけちゃってね(笑)。

その後、角田先生という女医さんが、マジックペンを持ってきて来て、「明日、手術するところにマークをつけさせていただきます」。えっ！ここまで最先端の医療機器で検査してきて、最後は手描きかよ(笑)。

角田先生は資料を見ながら二重丸や縦の線などを描いていくんです。手術する先生は、その印がなければできないわけですからね。マークを描いている先生が命の綱なんです。

「大丈夫だよ、がんばろう！」

山田邦子著 主婦と生活社発行

「あなたが大切だから」

歌詞・作曲:山田邦子/  
編曲:小六禮次郎  
NPO 法人  
キャンサーリボンズ作製  
がん支えあいシンホリックソング

描き終わって小さな声で「よし！」と言ったのを聞いたときは、何だかともうれしかったですね。

私の場合は、8年前からできていたんだとか。大体、10年で1〜2センチになるそうです。そこまでに見えてきれば早期で、ガバッと取らなくていいみたい。皆さん、どうですかあ。健康ですかあ。お元気ですかあ。

主人も、お医者さんから大丈夫と言われていても、やはり心配だったんだろなあ。夜中にむくつと起きて、あらぬ方向を見てため息をついたり。本当にかわいそうだった(笑)。

### 年を取るといろいろあるけれど...

主人の実家は北海道帯広なんです。見渡す限りじゃがいも畑。私は同居しなかったものだから、ちよつと楽させてもらいました。

義母は、結婚3年目の時、末期大腸がんのため、あつという間のお別れでした。83歳だったんですね。

皆さんにもあつたと思いますが、そろそろ結婚かなって思ったとき「よろしくお願ひいたします」とあいさつに。私にも、もれなくそんな時がありました。「何てあいさつすればいいのかなあ」バリバリの芸能人ですから、「山田邦子です」と言ってもバレていますからねえ。だからといって「どうも、どうも」と言ってもなんですからね。

田舎の人って、飛行機の到着時間がわかっている、早くから家の前で待っているんですね。もしかして、息

子の嫁になるかも知れない山田邦子が来るというので、何回も出たり入ったりしていたんでしょうね。

100メートルも先からおじぎをしているのかと思い、「お待たせしました！」とあわてて駆け寄ってみたら、腰が曲がっているだけだった(笑)。

主人ともども、無上の愛を受けたこと、私の一生の財産になっています。

腰の曲がった義母と一緒に撮りたいと言うので、スーパーマーケットで借りてきた台車を支えに立ってもらって苦労して撮ったプリクラ。義母は最期まで病室に「宝だから」と言って貼って喜んでくれたこと、本当に嬉しかった。

義母が亡くなった後の暑い夏、義母が東京に出てきたので気合を入れて作ったそうめんつゆ。冷蔵庫に「つゆ」って書いて入れておいたのに、夜中に義父が麦茶と間違えて飲んで大騒ぎした。その義父も、昨年88歳で亡くなりました。

人間は年を取るといろいろありますよね。皆さんも今日は楽しい会と聞いて出てきたのはいいけれど、もう朝食食べたものもわからない(笑)。いきなり聞かれたって「えっ? えっ!」ってことになっちゃうでしょ。2階に物を取りに行った方がいいが、あれっ、何取りに来たんだっけ?(笑)。始まっているんですよ。でもいいんです。深く考えない。楽しいことだけでやっていきましよう。その位でいいんです。

病気になるたらそれがすごくよく分かった。私にも具合の悪い日もあれば、

気分がいい日もある。元気なときもある。これでいいと思うんです。

### スター混声合唱団

聖路加国際病院理事長で96歳になる日野原重明先生。対談したら「大きな声を出すと病気が吹っ飛ばっちゃうよ。歌っている人にも聞いている人にもいいんだよ」と言われたので、スター混声合唱団を作ったんです。

メンバーの一人、倍賞千恵子さんも乳がんの5年先輩。倍賞さんにお会いできたことは私の宝です。乳がんの進行度も私と同じ位で、同じ病の人が目の前にいる、というのはすごく支えになりました。心配事を相談しても「ああ、大丈夫」と。これはいくら先生が大丈夫と言うより、やはり同じ病の仲間の人の言葉が心強かった。特に乳がんの人同士なんて、目と目が合うと「あなたは何年もの? 私は16年もの」(笑)と言える仲間ですからね。



やまだ くにこ 山田邦子さん

芸能生活は28年に及ぶ。昨年乳がんを患っていたことを明らかにし、ポランティアで「がん」の早期発見・撲滅の活動をしている。「スター混声合唱団」団長。20年に発足した厚生労働省「がんに関する啓発懇談会」メンバー。

合唱団には、自分やマネージャーががんだったとか、親がそうだった、友達がそうだった、ということでも参加してくれているいろんなメンバーが、今60数人。皆でドミソとかやっていきます。昨年4月1日に発足してから1カ月に1回のペースで13回活動しました。この後は、吉武輝子さんとの対談になります。吉武さんも病気のデパートでも元気ですよ。

メソメソ泣くのも私、元気なときも私、具合悪い、クヨクヨするのも私、笑うのも私。皆さんもこれから病気になるたときとか、いろんなことで悩んだとき「あつ、そうだ、あのと山田邦子が言っていた」と、思い出してください。

### \*スター混声合唱団

山田邦子さん、鳥越俊太郎さんの2人を中心として、メディアでおなじみの方たちで形成した合唱団。  
がんに対する知識と理解を広く呼びかけ、コンサートの利益を関連団体に寄付するなど、さまざまなチャリティ活動を行っています。

### 第3部

#### (輝子さん・邦子さん対談)

#### 世のため人のための活動を!

**吉武** お久しぶり。やはり60年代生まれと、30年代生まれとではエネルギーの違いを感じました。

**山田** しかしお元気ですねえ。

**吉武** 昨年、邦子ちゃんに世話役をお願いした「ななにんかい」の立ち上げは、うれしかったですねえ。

**山田** 吉武さんは座長ですよ。それも厳しい座長でしてね。

**吉武** ぼけの集まりみたいなのが、大嫌いな。

生きていくには、どんなことが必要なのか。人は何が必要なのか、ということ語りかけていくことができないか、と思った時に、よおし、「なになんかい」をつくらうと。

**山田** 七人の女性で「なになんかい」。何か意味があるんですか？

**吉武** 何もないの（笑）。

**山田** 私は入れと言われたから、何も分からないまま会に行っただけです。

**吉武** 山田邦子ちゃんの若さ、このエネルギー、明るさは「なになんかい」には絶対必要なので、まず一番に邦子ちゃんに声を掛けたの。

**山田** ありがとうございます。

**吉武** 今日のこの催しに邦子ちゃんをボランティアでの参加です。

**山田** お話を聞いているうちに、東久留米の方々の熱心さ、いろいろな会を開催していることが分かりました。

お金がなくても、本当に熱心に頑張っていることが分かりますのでね。

**吉武** 邦子ちゃんも病気を経験することによって、人間に対するやさしさを習得できたんですね。

**山田** 私、乳がんでしたけど、それでも命拾いしたこと何か恩返しができないか。「大切なのは検診を受けること」だとマスクミを通してでもいい、まず伝えることだと思っただけです。日本人は恥ずかしがりやで、自分は

ならないだろうからと検診に行かない。これが手遅れなの。紙一重ですよ。検診に行ったかどうかがその分かれ目なのです。

皆さん分かりましたか？ 検診、受けましょうね。

**吉武** そうです。そして、笑いましよ。泣きましょ。

笑うのは免疫性ができる。ごうごうと泣くのは魂が洗われて、病気の回復に役に立つんです。

**山田** はじめは動物が大好きなグループの集いでお会いし、うわあ！ 吉武さん本物だあ、と。

その時はこんなに仲良くさせていただけとは思わなかったのに、住まいが近いこともあり、お話するようになって、「今度さあ、会があるので一緒に行こうよ」とかね。

さっきの吉武さんの講演で「タスキをつなぐ」というお話がありましたけれど、そのためには吉武さんのお話をもっと、もっと聞いておかないとねえ。

**吉武** ありがとうございます。これからもよろしくね（笑）。

**山田** よろしくと言われても、それほどできないかも知れませんが、頑張りたいと思います。



※文中で紹介している本は男女平等推進センターで貸し出しをしています。ご利用下さい。

## 乳がんミニ知識

乳がんは今や生存率の高い治せるがんです。特に2ミリ以下のしこりで発見できれば死ぬことはないと言われています。それにもかかわらず1年間に1万人以上の方が乳がんで亡くなっています。2ミリ以下のゼロ期のがんが発見できるマンモグラフィー検診を2年に1度はぜひ受けましょう。乳がんは自己検診ができるのも特徴です。自分の健康を守る努力を習慣化しましょう。



乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを世界の女性たちに伝える運動のシンボルマークがピンクリボンです。胸元にピンク色のリボンをつけることでセルフチェックや定期検診をうながし、乳がんに対する意識を高めることを目的としています。

## 東久留米市の女性がん検診について

平成20年の東久留米市の乳がん・子宮がん検診の受診率はどちらも10%未満となっています。皆さん、ぜひ検診を受けましょう。

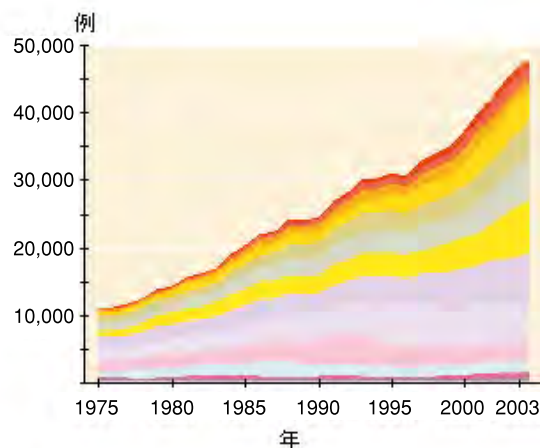
東久留米市では毎年秋に「乳がん検診」「子宮がん検診」を実施しています。募集期間・実施時期などの詳細は市役所健康課特定健診係（477-0013）までお問い合わせください。

## 男女平等推進センターからのメッセージ

### 性差医療

男女共同参画基本計画では具体的施策として生涯を通じた女性の健康支援をあげています。男女がその健康状態に応じて適切に自己管理を行なうことができるようにするための健康教育、相談体制を確立するとともに、性差に応じた的確な医療である性差医療を推進しています。特に女性については、人生の各ステージに対応した適切な健康の保持増進ができるよう対策の推進と、スポーツを通じた健康の保持増進を図るとしています。

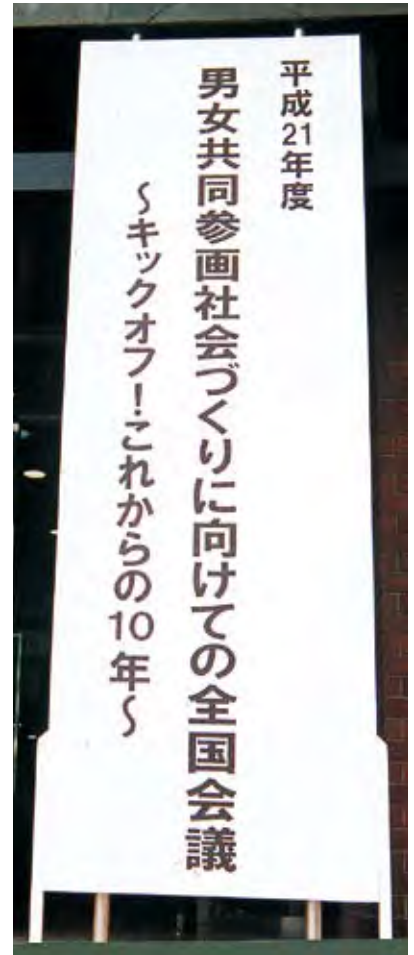
年齢別がん罹患患者数の推移（女性）  
[乳房 1975年～2003年]



85+	80-84	75-79	70-74
65-69	60-64	55-59	50-54
45-49	40-44	35-39	30-34
25-29	20-24	15-19	10-14
5-9	0-4		

資料：国立がんセンターがん対策情報センター

長い間、「欧米女性に比べて日本人女性に乳がんは少ない」と言われてきました。しかし、わずか10年ほどの間に日本人女性の乳がん罹患率（乳がんにかかる率）は、急激に増えています。その数は、10年前にはおよそ50人に1人とされていましたが、7～8年前は40人に1人、ここ数年は30人に1人といわれ、もっとも新しい医療統計（平成16年）では、23人の女性に1人となりました。



## 男女共同参画社会基本法制定から10年

### 男女共同参画づくりに向けての全国会議から

6月26日(金)、日本青年館において、平成21年度男女共同参画づくりに向けての全国会議「キックオフ！これからの10年」男女共同参画社会基本法制定から10年」が開催されました。その一部をレポートします。

#### 開会挨拶

開会に当たっては小淵優子特命担当大臣(少子化対策・男女共同参画)より、男女共同参画基本法(以下基本法と略す)が制定されてから今年でちょうど10年ということもあって、今までの流れをおさらいするように話がされました。



挨拶する小淵優子氏

小淵氏はくしくも10年前、基本法を制定した総理大臣が父親の小淵恵三氏であったことにも触れ、縁あってこの場に立てることが光栄である旨の挨拶をしました。

このあと、「男女共同参画シンボルマーク」と「男女共同参画週間標語」

それぞれの最優秀賞受賞者の表彰が行われ、優秀賞・作品についてもあわせて紹介されました。

引き続き男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞者と、女性のチャレンジ賞・支援賞・特別部門賞の各賞の受賞者の紹介が行なわれ、表彰・受賞者挨拶がありました。

#### 来賓挨拶

その後、慶応義塾大学名誉教授、岩男壽美子氏の来賓挨拶となりました。これまでの10年の振り返りと、基本法制定当時のエピソードは、大変興味深いものでした。



岩男壽美子氏による来賓挨拶

実は基本法の制定にあたっては古橋源六郎氏、野中広務官房長官(当時)の2人の役割が大変大きかったという話がありました。

基本法制定にあたっての基礎を作成されたのが古橋氏だったということには大変驚きました。

一方の野中氏は法整備が大変に厳し

かった中で、現実的な認識を持ち、お二人の手腕があったからこそ、今の基本法の10年があるのだという話でした。

#### 鼎談(ていだん)

鼎談は「これからの男女共同参画社会への展望と期待」をテーマに、伊藤公雄(京都大学大学院教授)、潮谷義子(前熊本県知事・長崎国際大学学長)、北城恪太郎(日本IBM株式会社最高顧問)の3人で行なわれました。

伊藤氏は、男女共同参画の、その前史から基本法制定、そして今までの流れを振り返りながら、現在・過去・そして未来への課題提示という形で話されました。特に70年代から80年代の経済成長が男性の長時間労働を生み、女性の社会参加を抑制したと指摘しています。

潮谷氏は、知事時代に進めてきた実例などを踏まえ、人権と平等について触れました。あわせてワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)や共生も男女共同参画には欠かせない要素だとのことでした。

北城氏からは、企業の戦力としての人材という側面からの話で、特にIBMは外資系の企業ということもあって、社内努力も活発にやっており、能力と条件が合えば女性の能力活用や男性の育児参加もできるワーク・ライフ・バランス企業を目指し、取り組んでいるとのことでした。時間・空間共にフレ

## 男女共同参画シンボルマーク最優秀賞



男女が手を取り合っている様子がモチーフで、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いがこめられています。

## 「男女共同参画週間」標語最優秀作品

# 「共同参画 新たな社会のパスワード」

キシブルな働き方ができるように、女性のキャリアアップ阻害要因についても、自然体で取り組む努力をしているとの話でした。

### パネルディスカッション

休憩を挟み、「―新たな時代・生き方へ向けて―」と題したパネルディスカッションが、藤沢久美氏をコーディネーターに、江崎貴久(有)オズ代表取締役、奥山睦(株)ウイル代表取締役、土堤内昭雄(株)ニッセイ基礎研究所主任研究員の3人で行われました。

江崎さんからは旅館の女将の仕事と、もう一つ海島遊民クラブのエコツアーガイドの話がありました。エコツアーを念頭に、地域の「らしさ」を生かして「ならでは」の商品作りを心掛けていくこと、三重県鳥羽での旅館経営と、鳥羽でのエコツアーは、観光業と漁業の歩み寄りとコラボレーションで工夫がされているとのことでした。

奥山さんは、起業家としての切り口から話をしました。会社員時代は給料も良かったが、体調を崩して振り返った時、果たしてこのままの自分で良いのだろうか、いろんな人生があっても良いのではないかと感じ、そのときから考えは変わったといいます。

会社員として一生過ごすのも、いろんな経験をして一生過ごすのも同じ人生だとすれば、悔いのないものにしたと起業したとのことでした。

生きていく上で、原因と結果だけを見るのではなく、そのプロセス(実際の経過)のほうが大変なのだという話でした。

土堤内さんからは、ワーク・ライフ・バランスの話でした。高度経済成長期のような右肩上がりの成長が今後見込めない中で、脱会社人間が増え始めているといいます。

会社での仕事が人生の全てではなくなってきた今、いろんなことができることがワーク・ライフ・バランスには必要だとのこと。状況を受け入れた上で、自立した「個」を育てていくことや、子どもの人生に付き添っていくこと、子育てをサポートしていくことが求められている。職業・家庭・地域という生活全体の調和という視点から、グッド・ライフ・バランスが大切と力説しました。

最後に、江崎さんは「相手の個性を否定せず線引きしない」、奥山さんは「個性を重んじる必要性」と「マイノリティを恐れずに楽しみ、自分と違う人も一緒に何かをしよう」、土堤内さんは「労働に賃金対価にないものまで含めて考えたい」と結ばれ、パネルディスカッションは終了し、今回の全国会議は盛会裏に閉会しました。

※文中敬称略、肩書きは会議当時のものです。

Photo:取材/佐伯淳一

## 「男女共同参画週間」と「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」

男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画社会基本法が平成11年6月23日に公布・施行されました。

この基本法の目的及び基本理念に対する国民の理解を深め、男女共同参画社会の形成の促進を図るため、内閣府(旧総理府)男女共同参画推進本部(内閣総理大臣を本部長、内閣官房長官を副本部長とし、本部員は全国務大臣で構成)では、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日を踏まえ、毎年6月23日からの1週間を「男女共同参画週間」としています。

この週間の期間中、国は、男女共同参画社会の実現のために何が必要か、今後どのように進んでいくべきかを考える機会を設け、男女共同参画社会づくりに向けて人々の一層の理解と協力が得られるように「男女共同参画週間」の中央行事として、「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」を開催するほか、地方公共団体や女性団体その他の関係団体の協力の下に、男女共同参画社会の実現に向けた各種行事及び広報啓発活動を行っています。

## 『ビッグツリー』

佐々木常夫著

WAVE出版／1,575円(税込)

家族の問題からワーク・ライフ・バランスの大切さを説く



家族とともに生きる人生は、病気、事故、仕事問題、人間関係などいっ何がおこるかわからない。そのすべてを「これも人生の一部」と受け入れて希望を胸に生きていきたい。風雪に耐えるビッグツリーのよう。

この本の著者、佐々木常夫氏は東レ経営研究所の所長である。その会社生活の大半を家族の問題を抱えながら過ごしてきた。自閉症の長男に、年子で三人の子どもたち。妻は自分の病気や、障害のある息子への心配などからうつ病になり40回以上の入院を繰り返していた。そのため著者は、仕事、家事、育児、介護のすべてを担うことになる。もともと前向きで器用な佐々木氏は子どもたちと協力しながら目の前のことを処理していく。限られた時間のなかで仕事をするためには効率化が必要になってくる。

毎日6時に帰るために自分の部署全体の残業がなくなるように工夫していった。そのノウハウは大変興味深く、多くの会社が参考にしている。この家族との生活で佐々木氏はビジネスマンとしてだけでは得られなかったものをたくさん得てきたと思う。自閉症の家族の会に参加することで「会社の仕事をするだけが社会貢献か？」と自問する。勤めながら地域活動をするのが大事ではないかと。また、自分自身の仕事と家事の両立の大変さから女性の社会進出の難しさについて考え

る。そんなスーパーマンのような佐々木氏でも妻の度重なる自殺未遂では本参りに参ってしまう。自分は一休妻の何なのか？  
そして自分は一生懸命やっていたが、かえってそれが妻を苦しめていたのかもしれない。介護される側、病気の人の悲しさをもっと考えてやるべきだったと思う。  
会社人としてワーク・ライフ・バランスの重要性を説く佐々木氏の言葉は、全てを真摯に取り組んできただけに深い。  
あきらめないことの大切さを教えてくれる一冊だ。

## 『「婚活」時代』

山田昌弘、白河桃子／共著

ディスカヴァー・トゥエンティワン／1,050円(税込)

刷り込まれた結婚観を変える



「婚活」という言葉をたびたび聞くようになり、「婚活」をタイトルにしたドラマもできた。「婚活」は結婚活動の略である。この言葉の生みの親は「パラサイトシングル」の時代「希望格差社会」などの著書でも有名な家族社会学

者で中央大学教授の山田昌弘氏。この山田氏と、結婚情報サービス業界の取材では第一人者で、女性雇用機会均等法以降の女性の生き方も取材しているジャーナリストの白河桃子氏が世に送った共著が本書である。結婚を目的として自分を磨いたり、意識的に出会いを探していく「婚活」。本書には「婚活」を取り巻く社会的背景、具体的婚活方法や各種サービスの賢い活用方法などが紹介されている。データも多く記載されている。山田氏はデータや表で客観的に、白河氏は取材に基づく話が多く、説得力がある。

内容を要約した細やかな目次、読んでいくとキーワードになる言葉は太字になっていてマニュアル本のような。 「出会い格差」「魅力格差」「女性たちよ、狩りに出よ。男性たちは、自分を磨け」など、本書にはそのまま一人歩きできそうなインパクトのある言葉や文章が満載だ。対談のページやあとがきを読むと両氏の深い思いも伝わってくる。「人はどのようにして結婚に踏み切るのかという実態や、その時代の変化についての把握がまず必要です。そして、中高年の政策担当者や研究者は、現在若年者の男

女交際に起こっている現実を、まったくといっていいほど理解していません。(中略)結婚したくてもできないという現実が広汎にひろがっているのです。(山田氏)  
「結婚活動をしないと結婚できない時代になった」「女性たちは結婚・恋愛に関しては、まだまだ受け身です」(白河氏)  
今、大きく結婚観を転換する時代なのだろうか。昔ながらの結婚観や「こうあるべき」といった刷り込まれた意識を変えていくときなのかもしれない。



## フイフティ<sup>2</sup>主催講座

市民企画講座

### 「共学？ 別学？」

#### 「どっちを選ぶ？」

○日時 平成21年6月20日(土)

午後2時～4時

○場所 男女平等推進センター 会議室

○講師 榎田眞澄氏(元茨城大学教授)

○企画 企画・運営 くるーばあ



榎田眞澄氏

本講座は市民企画講座。企画・運営は自由学園最髙学部<sup>2</sup>の四年生。講師の榎田氏の著書『男女平等教育今まで、これから』(ドメス出版)を読んだことが企画のきっかけだった。フレッシュで一生懸命で、楽しい講座だった。

講師は男女平等教育のエキスパート。現場の教師もされてきており、共学派である。人間発達の視点からみると中高生時代は個性の探求・伸張、自立の基礎、人間観や世界観の形成がなされ、個性を最初に発揮させる時期である。この時期に自分の個性を客観視し、男とは？女とは？と考えるにも共学が良し、自然であると言う。さらに共学だったか別学だったかは、その人の人生にも影響を及ぼすとも。

講演では戦後の教育改革、共学化の

流れ、別学校の存在についてや家庭科

問題も取り上げられた。講師いわく、

家庭科は男女の役割分担として学ぶ教

科ではなく、自分が生きるための学習

であるとの話は、その通りと思った。

今後に向けては、子供を産む女性を

尊重する社会になってほしい。そのため

には、男女平等教育が大事であると強

調した。

講演後は講師を囲み、参加者全員

で意見交換して終了した。

### 「気付かない…DV」を考える part 5

#### 「愛の方程式？デートDV」

#### 「早稲田大学生からのメッセージ」

○日時 平成21年7月25日(土)

午後2時～4時

○場所 市役所 702会議室

○講師 兵藤智佳氏(早稲田大学平山

郁夫記念ボランティアセンター助教)

菊池悠美佳さん・竹田早希さん

(元早稲田大学生)



兵藤智佳氏

「デートDV」というテーマから参加者は若い人が多いかと思われたが、20人弱の参加者の性別、年代、背景はさまざまで、被害者支援をしている方も数人いた。

初めに、兵藤先生の講義を受けた学生たちが2007年に制作したDVDを見た。



菊池さん(左)・竹田さん(右)

さすがに若い人が作っただけあって、イラストもきれいでBGMに乗って現れる画面には、明るく幸せそうな若いカッブルの姿。

その中で、「こんなことはありませんか？気づいていますか？これはDVなのですよ。」本当はこんなに幸せでいられるのに、傷つけ合うのは何故なのか？と問いかける。

制作にかかわった菊池さん、竹田さんたちは、議論を重ねて同世代に語り問いかける自分たちの言葉にこだわった。そして生まれたのが、

「好きだから、何でも許されると思っ

ていませんか？」

「つらい恋を切ないラブストーリーと、は

きちがえていませんか？」

などのフレーズである。

後半、参加者と講師との間で活発な意見交換があり、制作者の意図がよく理解された。そして若い人がこれを見ることができ、DVに早く気づくことができるのではないかと意見が多く寄せられた。

若い女性を対象とした「DV」に関

する調査では、5人に1人がデートDVの被害者であるという。多くの若者にとってDVは、他人事ではない。通信(メール)の頻繁化によって知らないうちに精神的に束縛されていたり、「恋人を持つ」というプレッシャーから関係を絶つことができないことが被害を生む原因にもなっていると言ふ。

子どもが被害を受けているとわかったときは、親は頭ごなしに意見を押し付けるのではなく、本人が何を考え、どうしたいのか、また自分の体験を交え、一緒に共感しながら話を聞いてくれることが支えになると、2人は子どもの立場で話した。

参加した女子高校生(二年)から感想をもらった。

「デートDVでは、自分の意志を伝えられない女の子が被害者になるというイメージがあったが、そうばかりではないこと。また、男女どちらも被害者になることや、被害者であることに気づかないケースもあると知って驚いた。自分と遠いものではなく、身近に起こり得るとわかった。自分で気づけることが大切だと思う。」

### デートDV

DVとはドメスティック・バイオレンスの略語です。ドメスティックとは「家庭の中」、バイオレンスは「暴力」のことです。DVは家庭内暴力、主に配偶者間の精神的・肉体的暴力をいいます。デートDVとは主に若者で、恋人のように親しい間柄に起こる暴力をいいます。

